| 年度 2008　学期 後期 | 曜日・校時　　火曜・2校時 | 必修選択　　選択 | 単位数　2 |
|---|---|---|---|
| 授業科目/(英語名) | 人間と環境　-温度環境、微生物環境、放射線環境-<br>(Human and Environment -Temperature, Microorganisms and Radiation-) | | |
| 対象年次　1・2年次 | 講義形態　講義 | 教室 | |
| 対象学生（クラス等）　全学部 | | 科目分類　人間科学科目 | |

担当教員：松田尚樹/Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：nuric@nagasaki-u.ac.jp/研究室：先導生命科学研究支援ｾﾝﾀｰ・ｱｲｿﾄｰﾌﾟ実験施設/TEL：095-819-7150/オフィスアワー：毎週火曜日午前9時ー10時

| 担当教員(オムニバス科目等) | 大渡伸（熱帯医学研究所）、竹下哲史（共同研究交流センター） |
|---|---|

授業のねらい/授業方法）/授業到達目標

授業のねらい：

日常の生活において、温度、微生物、及び放射線・紫外線は我々が避けることのできない環境中の因子である。本授業は、これらの環境因子と人間との関係についての理解し、知識を深めることを目的とする。

授業方法：

3名の教員で上記の環境因子をそれぞれ担当し、PCを用いて講義を行う。

授業到達目標：

（1）温度環境：ヒトの体温調節システムおよび体温維持の意義を理解する。さらに、暑熱・寒冷の温度環境における生体反応と温度順化を理解し、生命維持対策を導くことができるようにする。また、地球温暖化による熱帯感染症拡大を含め、ヒトへの影響を理解し、説明できるようにする。

（2）微生物環境：人間や環境と、微生物との関わりを学ぶ。さらに、微生物は人間にとって有害であるということが強調されがちであるが、大部分の微生物は動物や植物の生活環境を支え、人間にとっても必要不可欠な協力者になっていることを理解する。

（3）放射線環境：放射線と紫外線の基礎、人体に及ぼす影響、およびその防護体系・防護法について学び、放射線と紫外線の害と恩恵について、正しい知識に基づき自分の考えを導くことができるようにする。

授業内容（概要）

温度、微生物、及び放射線・紫外線について、まず基礎を概説し、次いで人間との係り、健康への影響、及びその対処等について各論を述べる。

【温度環境・大渡】

第 1 回（9月30日）　人間の体温調節
第 2 回（10月7日）　発熱と解熱
第 3 回（10月14日）　高体温障害と対策，温度環境への適応
第 4 回（10月21日）　地球温暖化の影響
第 5 回（10月28日）　熱帯感染症と地球温暖化（熱帯医学研究所資料館の見学）

【微生物環境・竹下】

第 6 回（11月4日）　微生物とは
第 7 回（11月11日）　くらしと微生物
第 8 回（11月18日）　環境における微生物の役割
第 9 回（11月25日）　環境浄化と微生物
第１０回（12月2日）　人間と微生物

【放射線環境・松田】

第１１回（12月9日）　放射線と紫外線の基礎
第１２回（12月16日）　放射線影響
第１３回（1月13日）　紫外線影響
第１４回（1月20日）　放射線と紫外線の防護
第１５回（2月10日）　授業の総括（試験含む）

| キーワード | |
|---|---|
| 教科書・教材・参考書 | 教科書は用いず、授業計画に沿ったプリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。 |
| 成績評価の方法・基準等 | ○定期考査90%、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況10% |
| 受講要件(履修条件) | |
| 本科目の位置づけ<br>/学習・教育目標 | |
| 備考(準備学習等) | 温度環境、微生物、放射線・紫外線に関連する新聞記事、ニュース等を読んでおくこと。 |